

事業名：通学路安全推進事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：船橋市立三田中学校区

拠点校：船橋市立薬円台南小学校

所轄教育委員会：船橋市教育委員会

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状

○モデル地域名：船橋市立三田中学校区

○学校数：小学校 2 校

中学校 1 校

(2) モデル地域の安全上の課題

モデル地域は船橋市東部に位置し、習志野市、八千代市に隣接し、国道 296 号線及び三山、実籾街道に面した住宅地である。

本地域の幹線道路には多くの自動車が走行し、また、渋滞を避けるために住宅街を抜け道として通過する自動車もいる。

さらに、住宅街の道幅が狭く見通しが悪い交差点が多く存在するため、児童生徒の交通事故に注意が必要な地域である。

このようなことから、児童生徒の安全・安心な環境づくりを構築するとともに、児童生徒自身の自分の身を守る判断力や行動力を育成する必要がある。

2 モデル地域の事業目標

○児童生徒が安全教育を通して地域の交通安全上の課題を理解するとともに、危険予測能力や回避能力を身に付け、自分の身を守るために適切な判断や行動ができるようにする。

○学校、家庭、地域、関係機関がそれぞれの役割を明確にし、地域の特性に応じた学校安全体制を構築する。

○拠点校がモデル地域内の学校と連携しながら、市内の各学校に事業の取組や成果を発信することで、安全教育への意識を向上させる。

3 取組の概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
7 月	○第 1 回合同推進委員会への参加	市教委・拠点校職員
8 月	○第 1 回実践委員会	実践委員
9 月	○交通安全教育校内研修	学校安全アドバイザー・市教委・拠点校職員
10 月	○船橋市トラック協会による交通安全教室	船橋市トラック協会・船橋東警察・市関係課・市教委・拠点校職員・拠点校児童
	○地域ボランティアとともに地域の交通安全に関わる学習	拠点校職員・拠点校児童・拠点校保護者
	○市民安全推進課による交通安全教室（歩行・自転車）	市関係課・市教委・拠点校職員・拠点校児童
	○スケアード・ストリート自転車交通安全教室	市教委職員・拠点校職員・拠点校児童
11 月	○公開研究会	学校安全アドバイザー・県教委・市教委・拠点校職

1月	○第2回合同推進 委員会の参加	員・県内教職 員 市教委・拠点 校職員
2月	○第2回実践委員 会	実践委員

4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

(ア) 実践委員会における情報共有

8月、2月に実践委員会を開催した。実践委員会の中で情報交換の時間を設け、地域内の交通安全における課題を確認し、実践等について共有を図った。

<実践委員>

東京都市大学准教授、千葉県教育庁葛南教育事務所主席指導主事、船橋市教育委員会保健体育課副主査、薬円台南小学校PTA会長、スクールガード・リーダー、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、薬円台南小学校校長、薬円台南小学校教頭、薬円台南小学校教諭

(イ) 公開授業の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、公開授業を実施した。

日時：令和7年11月7日

単元：総合的な学習の時間



「4年生薬南交通安全守り隊！」

内容：児童に「危険予測能力」や「危険回避能力」を身に付けさせるため、「危ないかも」をキーワードとして、交通事故が起きるかもしれない、事故が起きやすそうな場所を保護者やスクールガードの方々の協力を得ながら、フィールドワークを通して確認した。それらを

グループで話し合いながら「薬南小交通安全マップ」を作成し、発表する機会を設けることで、意識の変容を図った。

また、児童が地域の交通安全に対して意欲的に取り組んだ学習のまとめを保護者や地域の方々が参観することによって、最終目標である地域全体で児童の安全を見守る体制を構築することができた。

参加者：学校安全アドバイザー、県教育委員会、市教育委員会、拠点校職員、県内教職員、拠点校児童・保護者、地域住民

参加人数：199名

(ウ) 講演会の開催

モデル地域内において、学校安全アドバイザー（東京都市大学 准教授 稲垣具志氏）による講演会を実施した。

日時：令和7年11月7日

テーマ：子供の道路横断の判断能力とは？
～交通安全教育における家庭・地域の役割～

内容：小学生の交通事故の約8割が身近な道路で起こっている。また、発生状況をみると半分が信号無視、飛び出しなど歩行者側の違反であり、子供の能力の特性、限界を適切に把握する必要がある。そこで、子供がどの距離まで横断可能と判断しているか実験した。その結果から子供の認知、判断、行動能力の不備を補うためには、地域住民が主体となって声掛け等を行い、子供の安全を守ることが重要であると講演していただいた。

参加者：学校安全アドバイザー、県教育委員会、市教育委員会、拠点校職員、県内教職員、拠点校保護者、地域住民

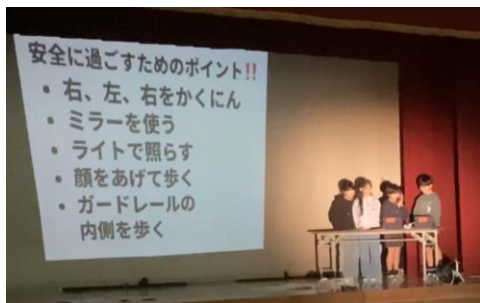
参加人数：120名

(エ) 地域の方や保護者向けに活動報告と児童の見守りの協力を呼びかける動画作成



(オ) 全校児童の交通安全意識の向上を図る活動

a 全校朝会での発表



日時：令和7年12月23日

内容：冬休み前の朝会で、全校児童に学区の「危ないカモ」(通学路の危険箇所)を紹介した。

参加者：拠点校職員、拠点校児童

参加人数：530人

b 交通安全を呼びかける新聞やポスター等の掲示

拠点校の4年児童が、学習したことを踏まえて、交通安全を呼びかける新聞やポスター等を作成し、拠点校の各学年の掲示板や校長室前廊下に掲示した。



- (カ) 船橋市トラック協会による交通安全教室
船橋市トラック協会主催による交通安全教室を実施した。

日時：令和 7 年 10 月 9 日

内容：横断歩道を渡る時の注意点やトラックが停車していることで起こる事故、内輪差によって起こる事故について説明を受けた。さらに、児童がトラックの運転席に座り、歩行者がどのように見えるのか、死角について体験した。

参加者：船橋市トラック協会、拠点校児童、拠点校職員、船橋東警察署、市商工振興課、市教育委員会

参加人数：180 名

- (キ) スケアード・ストレイト交通安全教室
スタントマンが演じる歩行者、自転車及び自動車運転手による交通事故再現を基にした交通安全教室を実施した。

日時：令和 7 年 10 月 16 日

内容：時速約 30 km で走行中の自動車による自転車への衝突、自転車の見本走行における違反行為探し、自転車の飛び出しによる自動車との衝突、横断歩道上での自転車と歩行者の衝突、大型車両（トラック）左折時の自動車巻き込み他

参加者：拠点校職員、拠点校児童、拠点校保護者、市教育委員会

参加人数：200 人

- (ク) 交通安全教室

船橋市市民安全推進課による交通安全教室を実施した。

日時：令和 7 年 10 月 3 日

内容：1 年生を対象に基本的な交通ルールの説明及び模擬道路による正しい道路の横断の仕方、信号機の見

方などの実技指導を行った。

また、4 年生を対象に自転車乗時の交通ルール、標識の説明及び自転車の正しい乗り方、模擬道路による正しい道路の走行方法等の実技指導を行った。

参加者：拠点校職員、拠点校児童・保護者、市市民安全推進課、市教育委員会

参加人数：200 人

- (コ) 学校安全アドバイザーの活用

・東京都市大学 准教授 稲垣 具志

派遣校数 1 校

派遣回数 3 回

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

- (ア) 拠点校である葉田台南小学校の 4 年生の児童や保護者を対象に意識調査を実施した。（10 月、12 月の比較）

a 児童の意識調査の結果から

意識調査の結果、通学路や家からよく行く場所までの道のりで危険な箇所があるかについて、学習前（10 月）は、「ない」「分からない」と答えた児童が 70% 以上いたが、学習後（12 月）は 20% にまで減った。フィールドワークを行ったことにより、「どこが、どのように危険なのか」等を自分の目で確かめることができたからだと考えられる。

b 保護者の意識調査の結果から

「登下校を見守る習慣があるか」について、学習前（10 月）は「見守る習慣がある」と答えた保護者が 50% であったが、学習後（12 月）は「今後も継続する」「見守り日を増やす」と回答した保護者の合計が 70% という結果が出た。これは、取り組みを通じて保護者も交通安全への意識が向上したからではないかと考え

られる。

(イ) スケアード・ストレイト交通安全教室
実施後のアンケート

児童からは、「並走や二人乗りなどが交通事故に繋がることを理解することができ、自分自身の行動を見直そうと思った。」「自転車に乗る時にヘルメットは恥ずかしくて着用していなかったが、交通事故の再現であんなにも人が吹っ飛んでいってしまうところを見たら、恥ずかしさ等捨てて、自分の命を守ることの方が大切だと感じた。」等の回答があった。

(ウ) 船橋市の成果指標

a 「交通安全マップ」を令和7年度の学校安全計画に記載している学校は 35 校 (41.6%) であったが、令和8年度の学校安全計画に記載するとしている学校は 13 校増加し、48 校 (57.1%) となった。

b 学校の安全管理（登下校の見守りや安全点検等）や登下校時の安全指導について、全ての学校で見直しが行われた。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

関する取組

ア 児童による交通安全点検時のフィールドワークを実施する際の保護者ボランティアの協力

イ モデル地域内各校 P T A との連携

・児童生徒の登下校時の見守り活動

ウ 地域ボランティアの協力

・登下校時の見守り活動

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

各学校で危機管理マニュアルの作成状況に関する調査や点検の実施

(4) その他の取組について

三田中学校におけるスケアード・ストレイト交通安全教室

令和7年10月29日に、三田中学校で、全校生徒を対象に、スタントマンが演じる歩行者、自転車及び自動車運転手による交通事故再現を基にした交通安全教室を実施した。



5 取組の成果と課題

【成果】

- ・「薬南小交通安全マップ」の学習を実施したことで、拠点校における児童の交通マナーを遵守する意識が向上した。
- ・拠点校の保護者に交通安全に関する学習発表会等を実施したことで保護者の交通安全に対する意識が向上した。
- ・拠点校において交通安全マップを作成し、校内で共有したことや学年に応じた交通安全教室を実施したことで全校児童の交通安全に関する意識が向上した。

【課題】

- ・交通安全教育の継続は必須であり、教育課程の編成や地域、関係機関との連携を継続的に行う必要がある。
- ・通学路の安全確保には道路環境の改善も必要であることから、交通安全プログラム等を通じて市行政や警察等関係機関への働きかけを継続していかなければならないが、即座に対応することが難しい。